

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森市立北小学校
授業者	成田 由美子

1. 単元計画

1-1. 単元名

守ろう！海

1-2. 学年

4 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

わかめの生態や養殖方法、塩蔵わかめ製品化等を体験することで、海の生き物に興味をもつだけでなく、地元の海のまだ知らない事業を知り、そこで働く人達の思いに触れることで、海を大切にしようとする心情を養う。また、自分達の身近にある海の海岸清掃を行うことで、わかめなどを養殖している身近な海にもたくさんゴミがあることに気付き、海を守るために自分達に何ができるのかを考えさせ、海を大切にしようとする心情を育てる。

～主な活動～

- 地域の海に生息する生物を調べる。
- わかめの生態やわかめの養殖について調べる。
- わかめの養殖方法、塩蔵わかめ製品化体験をする。
- まとめる。
- 海洋汚染の実態を調べる。
- 自分達にできることを考える。
- 海岸清掃をする。
- 報告会をする。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童が、わかめの生態やわかめに関する仕事に興味をもち、実際に見学・体験的な学習することを中心に進める。このことにより、わかめについて知るだけでなく、わかめに携わる人々の願いや思いに気付き、少しでも地元の海に対する思いを高め、海を大切にしようとする心情を養うことを目指す。

また、学校近くの海岸清掃を通して、地元の海が汚れることで、そこで育つ生き物に悪い影響を与えることに気付かせ、海を大切にするために自分達にできることを考えさせ、実践していこうという態度を育てる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・調べてみたいことや、やってみたいことなどをもとに課題を設定し、海の生き物についての資料や情報を進んで収集し、わかめに関する仕事の内容の概要を理解する力。
- ・収集した情報を比較・分類しながら整理し、海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々の願いや思いを考え、自分の言葉でまとめる力。
- ・海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々の願いや思いを共感的に捉え、地元の海を大切にするために自分なりにできることを実行しようとする態度。

1-7. 単元の展開（全25時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 2時	地域の海に生息する生物を調べる ・陸奥湾に生息する生物を知る。 ・地域ではほたてやわかめなどの養殖をしていることを知る。 （わかめについては深く触れない）	・今後の学習の見通しをもたせる。 ・本やインターネット、昨年度見た「陸奥湾大好き」のDVDを想起させながら関心をもたせる。 ・調べた情報を共有させる。 【教】 「おさかな自慢図鑑」「続おさかな自慢図鑑」 著：青森市水産振興課 【評】 陸奥湾で育てている生き物や海の良さやを知ることができたか。
3 ～ 5時	わかめの生態やわかめの養殖について調べよう ・わかめについて、ある程度の知識を自分なりに獲得する。 ・Google Jamboardにまとめ、発表会を開く。	・わかめに観点を絞り、詳しく調べさせる。 【教】 使用アプリ：Google Jamboard 【評】 調べてみたいことや、やってみたいことなどをもとに、わかめについて自分なりに知ることができたか。
6 ～ 7時	わかめの養殖方法、塩蔵わかめ製品化体験しよう（本時） ・わかめの生態について知る。 ・わかめの育て方について知る。 ・遊走子の観察をする。 ・塩蔵わかめの製品化を体験する。 ・商品にシールを貼る。	・わかめは、根ではなく葉から栄養を摂ることを知らせる。 ・わかめの養殖について説明をする。 ・顕微鏡を使って、遊走子の観察をさせる。 ・児童からの質問に答える。 ・製品化するための説明をする。 【教】 生わかめ、わかめめかぶ、塩蔵わかめ 【外】 青森市水産振興センター 【評】 わかめの生態や育て方等について概要を理解できたか。
8 ～ 9時	わかったことをまとめよう ・わかったことを google jamboard にまとめる。 ・グループごとに発表練習をする。 ・わかめの生態や育て方が伝わる発表になっているかをお互いに確認し合う。	・見学をして分かったことや感じたことをパソコンの共有シートにまとめさせる。 ・海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々に共通する願いや思いが伝わる発表になるよう机間指導をする。 ・見やすく、聞きやすい発表になるよう助言する。 【教】 使用アプリ：Google Jamboard 【評】 まとめた内容をもとに、海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々の願いや思いをどのように相手に伝えるかを考えながら発表練習しているか。

10 〜 13 時	<p>海洋汚染の実態、改善策を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の本やインターネットを使って海洋汚染の実態と、海洋汚染を改善する方法などについて調べる。 ・調べたことをGoogle Jamboardにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋汚染は、外国だけでなく、日本各地や地元の海でも起きていることを理解させる。 <p>【教】使用アプリ：google jamboard</p> <p>【評】海洋汚染の実態や改善策について調べ、自分達にできる具体的な活動の見通しをもつことができたか。</p>
14 〜 20 時	<p>海洋汚染を防ぐために自分達にできることを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に自分達にできることを考え、実践できることをする。(ポスター、ちらし作り作文など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋汚染を防ぐために、自分達にすぐ実践できることを考えさせ、その一環として海岸清掃をすることとする。海岸清掃に向けて自分達の思いを確認させる。 <p>【教】使用アプリ：Google Jamboard</p> <p>【評】海洋汚染を防ぐために自分達ですぐに実行できることを考え、取り組むことができたか。</p>
21 〜 24 時	<p>海岸清掃をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の海をきれいするために、海岸清掃をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃は、一時的で、しかも狭い範囲でしかできていないことから、海をきれいにするためには、たくさんの人が継続して行わなくてはならないことを実感させる。 <p>【外】後潟・奥内赤十字婦人部</p> <p>【評】海岸清掃をすることで、海をきれいにするこの大変さ・大切さを理解し、これからも続けていこうという思いを持つことができたか。</p>
25 時	<p>報告会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の学びを発表する。 ・感想や質問を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習中の様子や、各班が調べてまとめた内容を説明する。 ・発表で良かった点や質問事項等を交換し合う。 <p>【評】海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々の願いや思いを、聞き手を意識して自分の言葉で伝えているか。</p> <p>【評】海の生き物やわかめに関する仕事に携わる人々の願いや思いを共感的に捉えながら、海を大切にするために自分なりにできそうなことを発言しているか。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 25 時間中の 6, 7 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

実際にわかめに関する説明を聞いたり作業したりすることで、海の生き物やわかめに関する仕事についての情報を進んで収集し、わかめの生態や育て方についての概要を理解することができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 わかめの生態について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかめのいろは茶色なんだ。 ・わかめは2色が混ざって茶色に見えるんだね。 ・わかめは根でなく、葉から栄養を摂るんだね。 <p>2 わかめの色が変わる瞬間を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかめをお湯に入れると、一瞬で緑色になった。 ・ぼくたちがいつも食べているわかめの色だね。 <p>3 わかめの育て方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカブを見たことがあるよ。 ・わかめは種から育つんじゃないんだね。 ・メカブから遊走子を取り出すんだ。 ・発芽させるには光と栄養を与えて育てるんだね。 ・室内で培養する期間は7月から10月下旬なんだ。 ・本養殖は寒い時期に収穫するんだね。 <p>4 遊走子の観察をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカブから白いもやもやしているのが出てきた。 ・メカブから遊走子が出てきているんだ。 ・もっとよく見てみたい。 ・この動いているのが遊走子なんだね。 ・たくさんいるよ。 ・遊走子はどのくらいの大きさなんだろう。 ・1つのメカブにいくつ付いているのかな。 <p>5 塩蔵わかめの製品化を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかめを少しだけとるのが意外と難しいな。 ・量りで重さを均等にするんだ。 ・同じ重さにするのは大変だ。 ・260グラムは結構多いんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかめは、根ではなく葉から栄養を摂ることを理解させる。（青森市水産振興センター職員） ・わかめの養殖について説明をする。（青森市水産振興センター職員） ・教師はわかめの生態と青森市水産振興センター職員の仕事内容との関わりを児童に教える。 ・メカブから遊走子が出てきている様子を観察させる。 ・顕微鏡を使って、遊走子の観察をさせる。 ・児童からの質問に答える。（青森市水産振興センター職員） ・製品化するための説明をする。（青森市水産振興センター職員）

<p>6 わかめを入れた袋にアイロンをかけて封をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりアイロンをかけないと、封ができないね。 ・やけどをしないように気をつけよう。 ・お店で売っているわかめみたいだ。 ・家の人といっしょに食べたいな。 ・家族も味噌汁にして食べるのが好きだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンの使い方を教える。 <p>【表】わかめの生態や育て方等について概要を理解できたか。(感想発表・行動観察)</p>
---	---

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・青森市水産振興センター職員に詳しく説明していただくことで海の学習に対する意欲が増し、興味や疑問をもつことができた。 ・わかめの観察や本物を手にとった体験をしたことにより、児童にとって身近なわかめが、どのような育ち方をしているのか知り、地域産のわかめに関心をもつきっかけになった。 ・わかめの遊走子を実際に見ることで、海がきれいでないと言えない事に気付くことができた。 ・わかめが育ってから商品化するまでの流れを学ぶことで、養殖する人の工夫に気付くことができた。 ・自分で仕分けや梱包したわかめを使い、家庭で様々な料理に使用して食べたことで、今回の学習のねらいに迫ることができ、また食育にもなった。 ・海岸清掃をしたことが、子どもたちに地元の海を大切にしようという思いをもたせるよい機会になった。

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育で学んだことを、異学年交流を通して伝え合う活動があると、本校の海洋教育の学びが深まる。 ・導入部分でわかめに興味・関心をもたせるための工夫をもっとする必要があった。今年度の海洋教育の学びを次年度に生かした学習をしたい。 ・昨年度どのような内容の学習をしたのかを情報交換しておくこと、どれくらいでどのような導入場面を設定すればよいのかが分かり、より効果的な学習を展開できるのではないかな。
--

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ・青森市水産振興センター職員との打ち合わせ、家庭科室の確保、本時に使う道具の準備が必要である。
